

石垣内部構造が明らかに



令和2年7月8日、小諸城三之門南側の袖堀と土台の石垣が崩落しました。これは記録を見る限り寛保2年(1742)に三之門と袖堀が水害で流されて以来の大被害です。
令和3年より復旧工事を始めましたが、これにより、通常は見る事ができない石垣の内部をつぶさに観察することができました。

今回の発掘調査で掘り起こした石垣の高さ。

石垣の構造

三之門袖堀の石垣は地盤を石と土でしっかりと固め、少ないながらも栗石●を入れて積み上げています。石垣の背面基盤は盛土ではなく、約1万5千年前の火砕流堆積物をそのまま利用しています。

興味深いのは埋もれていた石垣に時期差が見られることです。

現在見えている石垣は江戸時代後期に積まれたもので、石材は成形されています。対して埋もれていた石垣の基底部の辺りはほとんど石材を成形せず積み上げる野面積で一時代古い技法です。

特に突出している部分は積み替えの痕跡もなく、推測の域を出ませんが、仙石氏による創建期(慶長～元和・1600年代初頭の頃)の根石である可能性も捨てきれません。

●栗石

石垣が背面などから受ける土圧を軽減させたり、入り込んだ雨水を排水させるために入れる石。

●成果について

今後、専門家の指導助言を賜りながら詳細に検討を進めていきます。その過程で今回の報告内容を修正することがありますので、あらかじめご理解ください。



埋没していた石垣を上から撮影した写真。白枠線内が発掘した範囲。



地盤沈下を防ぐため設置された石。



江戸時代、三之門を押し流した「戌の満水」による城下の被害状況

旧暦の寛保2年8月1日、数日前から降り続いた雨により、中沢川で土石流が発生しました。土石流は六供、本町・田町、袋町などの城下町をのみ込み、小諸城まで押し寄せました。被害は甚大で200棟以上の町屋や侍屋敷、三之門を押し流し、507名の死者を出しました。

三界萬霊有縁無縁流死聖霊塔

六供無縁堂(六供2-258-1)にある戌の満水の被害者を供養する石塔。(小諸市教育委員会認定「小諸ふるさと遺産」、国土地理院登録「自然災害伝承碑」)

令和4年度復旧工事完了！被災前の三之門がよみがえります。